

2024 年度

高槻中学校・高槻高等学校

学校評価

1

めざす学校像

■めざす学校像

次代を担う人物を確かに育成する最優の進学校を目指す

■教育方針

確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と、変化する社会に積極的に対応し得る能力・意欲・創造性を養う

2

中期的目標

【中期的目標】、【課題を踏まえた実践計画】

① SSH(スーパーサイエンスハイスクール)、SGHN(スーパーグローバルハイスクールネットワーク)としての教育活動およびコース制の充実

指定3期1年目のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)校としては「グローバルマインドセットを備えた生命科学系リーダーの育成」を、8年間取り組んできたSGH事業を引き継ぐSGHN(スーパーグローバルハイスクールネットワーク) 参加校としては、「大阪医科薬科大学と一体化したアジア圏の人々の健康を支えるグローバルリーダーの育成」を目指し、より高度で質の高い教育活動の展開を図る。また、コース制は導入11年目となり、中 3 以降の学年が、GS(グローバルサイエンス)、GA(グローバルアドバンスト)、GL(グローバルリーダー)のカリキュラムに則った学修を進めている。今後、コースの特性に応じた教育プログラムのより一層の充実を図っていく。

②School Mission「Developing Future Leaders With A Global Mindset」の実現を図る教育活動の展開

本校のミッション実現に向け、卓越した語学力や国際的な視野を持って、世界を舞台に活躍できる次世代のリーダーを育成するための教育活動をより充実させる。

③高大連携の教育プログラムの充実

本校は、同一法人である大阪医科薬科大学との連携、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定、SGHN(スーパーグローバルハイスクールネットワーク)の参加というメリットを活かし、より多様で質の高い高大連携の教育活動、教育プログラムの充実を図っていく。

④「探究型」学習の充実と学力の三要素の育成

本校は、特色教育の一展開として「探究型」学習に取り組んでいる。思考力を重視した問題解決的な学びは、学習指導要領、それを踏まえた大学入試改革のキーワードにもなっている。そこでは、新しい時代に求められる資質・能力の三つの柱として【知識・技能】、【思考力・判断力・表現力】、【学びに向かう力・メタ認知】が挙げられている。自己評価では、深い学びが実現できているという項目の自己評価項目6が95%となっており、各教科で、知識の習得(インプット)だけではなく、考察と仮説の構築、推論による検証を繰り返す体系的な学びを促し、それを運用(アウトプット)する力を体得させるような学習を、本校の教育活動全体を通じて積極的に取り入れている。また、幅広い学びの成果や活動を記録するポートフォリオを活用し、生徒自身が振り返りや学習計画の改善、キャリアデザインできるよう指導している。さらに、中学では年度末に学修インタビューを行い、生徒自身が教育活動全般を振り返って省察しプレゼンテーションするとともに、高校では学年統括ポートフォリオを作成することを通して、主体的に学ぶ力や意欲の伸長を図っていく。

⑤高い学力が確かに身につく指導と成果の検証

進学実績の飛躍的な向上を図るため、各学年が年間計画で取り組む学力向上のための取り組みの実施状況とその成果について、節目節目で検証を行い、学校全体として実効性のある改善策を実施する。また、基礎・基本を徹底し、十分な理解度や到達度をもった上で、知識活用型の発展的な学習に取り組めるよう、特に中学段階における学習指導を徹底する。さらに、生徒の潜在能力を発揮させ、学力を十分に伸ばせるよう全校をあげて学力向上に関する具体的な取り組みを実践していく。

⑥徳育教育の充実

生徒が生命を大切に思う気持ちや社会のルールを身につけることができるよう、年間指導計画に基づき道德教育を継続的に行っている。共学8年目を迎え、服装、挨拶、清掃活動など生活の基本を大切に指導を徹底しながら、徳育教育の充実を図っていきたい。また、平和学習を目的とした中学修学旅行、ボランティア活動の奨励、道德教育の充実、人権教育の推進等とともに、学校の様々な教育活動を通して、心豊かな人間を育成していく。

⑦社会貢献活動としてのボランティアの推進

2016 年度よりボランティア活動支援センターを校務分掌の中に位置づけ、ボランティア活動を推進している。本校のミッション実現のため、多様で豊かな人間関係にふれる体験を教育活動の中に位置づけ、リーダーが持つべき他者を思いやる心、奉仕の心、課題解決力を育みたい。社会貢献活動を中心に行うボランティア委員会と、生徒募集イベントにおいてボランティア活動を行っている「T-BEST」の活動が、世界や人類の福祉に貢献できる人物の育成に繋がることを期待している。

⑧指導力および資質の向上を図る教員研修の実施

本校の特色ある教育の実践には、教員の指導力が必要不可欠である。教科指導や教育的課題についての学校内外での研修をより充実させ、日常的なOJTの活性化を図っていきたい。大学入試改革、学習指導要領の改訂をふまえ、教育活動の深化、協働性を高める取り組みを実践していく。

⑨ICT利活用教育の推進

これからの高度情報化社会を生き抜くために必要なICTスキルを養うため、メディアリテラシーを含めたICT教育を充実させていく。

⑩行事の精選

これまでに取り組んできた教育活動を振り返り、これからにふさわしい教育活動の構築のため行事の精選を行い再編していく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔2024 年実施分〕	学校協議会からの意見
【総論】 （１）【教員の評価より】　【回答数　2024 年度 63】 ＊改善項目　　30 項目中 18 項目　　（昨年度 30 項目中 14 項目） ＊評価 90%以上の項目　　20 項目　　（昨年度 16 項目） 　　　80%以上の項目　　30 項目　　（昨年度 27 項目） 自己評価は、全ての項目が 80%以上の肯定的評価となった。特に昨年比 10%以上の改善項目は「項目 20 教育活動において、体罰やセクシャル・ハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢に基づく生徒指導が行われている。97%」「項目 24 清掃指導に充分取り組んでいる。84%」であった。全体的に向上している。 （２）【生徒の評価より】 中学生　有効回答数 681 ＊90%以上の評価を受けた項目　13 項目（昨年度 11 項目） 　80%以上の評価を受けた項目　27 項目（昨年度 29 項目） 　79%以下の項目　　　　　　　3 項目（昨年度 0 項目） ＊中学全体の経年比較プラス評価　12 項目（昨年度 19 項目） 全体として 30 項目中 27 項目が 80%以上の肯定的評価を得ている。学年比較 5%以上のマイナス評価項目（学年・評価/平均）として、「学校の生活指導は適切ですか。（中 3 項目 6：73%/79%)」、「生活指導の方針に共感できますか。（中 3 項目 12：64%/72%)」、「学校は命の大切さについて、十分に指導していると思いますか。（中 1 項目 25：84%/90%)」「学校は地震や火災などが起こった場合について、どうすべきかをよく知らせていますか。（中 1 項目 28：79%/86%)」であり、成長段階の影響も考慮し、適切な指導を心掛ける必要がある。 高校生　有効回答数 663 ＊90%以上の評価を受けた項目　　12 項目（昨年度 7 項目） 　80%以上の評価を受けた項目　　28 項目（昨年度 27 項目） 　79%以下の項目　　　　　　　　2 項目（昨年度 3 項目） ＊高校全体の経年比較プラス評価　21 項目（昨年度 15 項目） 全体として 30 項目中 28 項目が 80%以上の肯定的評価を得ている。 学年比較 5%以上のマイナス評価項目（学年・評価/平均）の中でも 80%を下回る項目は、「学校の生活指導は適切ですか。（高 2 項目 5：74%/80%)」、「ホームルーム活動は活発で、クラス全体が関わっていると思いますか。（高 2 項目 9：72%/85%)」、「生活指導の方針に共感できますか。（高 2 項目 11：64%/70%)」、「基本的生活習慣やマナーを身につけられるような指導が行われていると思いますか。（高 2 項目 12：79%/85%)」、「生徒の心身の悩みに対して適切な対応が行われていると思いますか。（高 2 項目 13：78%/85%)」、「学校は生徒の健康管理に取り組んでいると思いますか。（高 2 項目 24：74%/83%)」、と高 2 の生活指導についての項目が他学年より低い傾向にあった。中学同様、成長段階の影響も考慮し、生徒理解に努めたい。 （３）【保護者の評価より】 中学保護者　有効回答数 642 ＊90%以上の評価を受けた項目　11 項目 ＊80%以上の評価を受けた項目　25 項目（昨年度 24 項目） ＊79%以下の項目　　　　　　　3 項目（昨年 4 項目） ＊28 項目中 25 項目が 80%以上の肯定的評価であった。 その中で、学年比較 5%以上のマイナス評価項目（学年・評価/平均）は、「子供の心身の健康について、気軽に先生と相談できますか。（中 1 項目 11：70%/78%)」「先生は、全ての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導に当たっていますか。（中 1 項目 22：83%/89%)」、「学校が保護者に出す文章・事務連絡などの量および内容は適切ですか。（中 1 項目 25：81%/88%)」と中 1 保護者の回答 3 項目があり、より高い評価が得られるよう、改善に向けて取り組む必要がある。 高校保護者　有効回答数 642 ＊90%以上の評価を受けた項目　11 項目（昨年度 9 項目） ＊80%以上の評価を受けた項目　27 項目（昨年度 23 項目） ＊79%以下の項目　　　　　　　1 項目 ＊28 項目中 27 項目が 80%以上の肯定的評価であった。 その中で、学年比較 5%以上のマイナス評価項目（学年・評価/平均）は、「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っていますか。」（高 2 項目 2:73%　/81%　）。「学習の内容や進度などを、懇談や学年通信やシラバスなどによってよく知ることができますか。」（高 2 項目 4：76%/81%）など項目 6・8・14・15・22・25・27 と全て高 2　の項目に集中しており、評価は 80%前後とはいえより教育活動に理解を得られるように分析し、改善に取り組む必要がある。	1. はじめに 教職員、生徒、保護者のいずれにおいても、ほぼすべてのアンケート項目についてプラス評価の回答が 70%以上を占めていることは高く評価できるものと考えます。 一方、学年比較又は経年比較で 10%以上超えるマイナスが生じているものは、特に注視が必要ですが、今回の調査結果では概ね良好な傾向だと考えます。ただし、ある特定の学年（高 2 の生徒・保護者評価）において経年比較で 10%以上超える項目が散見されました。 以上を踏まえつつ、以下、各論に触れます。 2. 教職員へのアンケート結果より 2023 年度から 2024 年度にかけてプラス評価の回答率が同一又は増えたものは 18 項目で、プラス評価の回答率が減ったものは 12 項目です。また、10 ポイント以上の減となった項目は無く、概ね問題ないと評価できるものといえます。 2023 年から 2 年連続で減少となっている項目は、項目 4、15、25、28 と 4 項目あります。これらのうち項目 25 、28 についてはプラス評価が低い傾向（それぞれ 81 %及び 83%）があるため、注視が必要であるといえるでしょう。 3. 生徒へのアンケート結果より 中学生、高校生ともに、項目 2, 3 の好意的回答が 93%以上であり、学校生活を楽しんでいると推察され、評価できるものと考えられます。 中学 1 年において中学平均との差が 5%以上高い項目として 1, 12 の 2 つがあり学校の校訓、学年指導の方針への理解が高いと言えます。一方、同項目が中学 3 年生で低い傾向が見られ、学年ごとの指導における違いが無いかなど確認の必要性があると考えられます。さらに中学 1 年において、中学平均との差が 5%以上低い項目が 25, 28 の 2 つであり、防災観点での項目でもありますので、経年による改善が認められるかには注視が必要であるといえるでしょう。 高校 2 年生は高校平均との差が 5%以上低い項目が 9 つと最も多いです。これらうち項目 11 の「生活指導の方針に共感できるか」はあまりあてはまらないとのマイナス回答が最も高い (16%)、また項目 5 の「学校の生活指導は適切か」はあまりあてはまらないとのマイナス回答が（11%）と他項目と比較して高値を示している。なお、昨年の評価においても、高校 1 年（本年の高校 2 年）で同じ傾向が継続しており、当該学年での指導に改善点がないか確認する必要性があると考えます。生活指導については数値だけでは単純に評価できない面はあるとしても、マイナス回答が高い項目である以上、分析と注視は必要であるといえるでしょう。 4. 保護者へのアンケート結果より 中学校、高等学校の保護者全体については、全ての項目でプラス評価 70%以上であること、あてはまらないとのマイナス回答が 10%以下であることの 2 点から大きな問題は無いと考えます。 敢えて課題を挙げるとすると高 2 の保護者の回答で項目 3, 4, 5, 8,においてあてはまらないとのマイナス回答が比較的高い（7・9 %）ことです。大学受験が現実味を帯びてきている学年であることからこのスコアになっている可能性があるのではないかと推察されます。前年も高校 2 年において類似の傾向が見られたことからこの推察の妥当性は判断できると考えますが、学校から適切な発信内容をより頻度を上げる等の配慮があれば保護者の不安も緩和する可能性があると思われます。 5. まとめ 注視すべき点はあるとしても、今回のアンケート結果をみれば、これまでの学校の改善努力が高いレベルで実っているといえます。今後の課題はその維持・継続にあらうと思われことから今後も不斷の努力をお願いします。 保護者と学校の良い関わりが生徒の健やか成長に重要であることはいうまでもなく、今後も、学校と保護者が、生徒の指導教育について円滑かつスムーズに連携し対応し良好な協力関係を維持することを期待します。 以上

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
①SSH およびコース制の充実	(1) SSHの教育活動の充実 (2) SGHNとして教育活動の充実 (3) GL コースの教育活動の充実 (4) 中学の教育内容の充実と進路意識の向上 (5) コース選択に関するガイダンスの実施	(1) 課題研究やその成果の発表、SS セミナー、サイエンスキャンプ、科学技術コンテストへの参加 (2) 課題研究やその成果の発表、グローバルセミナー、Stanford 大学オンライン講座 (3) 探究活動の充実の企画とその成果発表会の実施 (4) ア. 基礎基本の修得と定着の徹底 イ. キャリアガイダンス進路講演会「ようこそ先輩」(中1・中2) 選択式進路講演会(中3) (5) ア. コース説明会(生徒対象、保護者対象) イ. 中学の保護者対象学年集会において説明	(1・2) 各教育プログラムの実施後の生徒アンケート (3) 課題研究発表会の実施 (4) ア. 中学生の項目4の肯定的評価が90% (2023年度89%) イ. 中学生の項目20の肯定的評価が85% (2023年度81%) (5) ア. 中1・中2で各1回 イ. 中学保護者の項目1の肯定的評価が90% (2023年度93%)	(1) 研究の成果発表、コンテスト等に18名参加した。SSセミナーは18回実施された。SSH研究開発実施報告書の項目3「学問の先端的な深い内容や最先端の研究のことを知りたい」が88%、17「自然現象を科学的に捉えられる」が78%であった。(○) (2) 課題研究において、グローバルヘルスと関連づけて課題を設定し、先行研究を調べ課題の背景や問題点を意識しながら、社会科学的または統計的に資料の収集・分析ができた。(○) (3) 2月22日(土)に全校をあげて課題研究発表会を開催した。各コースより合わせてポスター146本、口頭発表20本の発表があった。(◎) (4) ア. 中学生の項目4「学校の授業は理解できていますか」の肯定的評価は91%であった。(○) イ. 中学生の項目20「学校は学習意欲や進路意識が向上するような指導をしていますか」が中学生の平均が83%であった。各進路講演会は全て実施できた(△) (5) ア. 中1、中2で各一回計画通り実施した。(○) イ. 項目1「学校は教育方針を分かりやすく伝えている」の肯定的評価は94%であった。(◎)
	「Global Mindset」を持った次世代のリーダーを養うための教育活動の実施	ア. 次世代リーダー養成プログラム(英国研修、米国研修)の実施 イ. ターム留学(12月末～2月上旬まで留学) ウ. 特色教育としての英語教育の充実(ケンブリッジ英語)、使える英語を身につけるための英会話の授業(オンライン英会話含む) エ. 英語4技能を測定するケンブリッジ英検の受検(中2・高1) オ. 言語活動の充実(ケンブリッジ英語の高校への導入) カ. グローバルセミナー実施 キ. 海外の中等教育学校(延平高級中学:台湾、台南第一高級中学、ミンゼンティー高校:パラオ)との提携と交流行事 ク. 海外フィールドワーク(GAコース:台湾・パラオ) ケ. DDP3年目の実施と新規募集 コ. 環太平洋高校生友好会議の実施	・各プログラムの実施 ・自己評価において項目15「探究的な教育活動が行われている」の肯定的評価が90% (2023年度89%)	ア. について、今年度は英国研修29名、米国研修40名が参加した。(○) イ. ターム留学はアメリカ(12月22日～2月23日)、カナダ(12月23日～2月23日)にそれぞれ19名、5名が参加した。(○) ウ. 今年度5年目を迎え、高校2年までがケンブリッジ英語の授業となった。(○) エ. 中2は11月30日、高1は11月16日に予定通り実施した。(○) オ. 高校2年まで導入された。(○) カ. 中3・高1・高2のGA生徒を対象に全2回実施した。(○) キ・ク. 台湾には高1GAコースの生徒44名が参加、パラオには高2GAコースの生徒34名が参加し、現地校との交流や各教育機関にご協力をいただき充実した研修を実施することができた。(◎) ケ. 実施3年目を迎え、2名の生徒が修了証を授与された。今年度、DDPの修了者5名が両校の卒業証明を授与された。(◎) コ. 12月1日、日本、台湾、アメリカ、ベトナムの高校生約100人とグローバルヘルス、温暖化対策や防災意識の向上、異文化の理解、倫理観を育むための教育など10の分科会に分かれ、各分野の専門家とともに英語で議論をした。(◎) 自己評価における項目15「グローバルイシューを扱った探究的な教育活動が行われている」が89%であった。(○)

③ 高大連携の教育プログラムの充実	高大連携の教育プログラムの開発	ア. 大阪医科薬科大学との連携 a) 医学部 SSH事業への支援、SGHN事業への支援、基礎医学講座、医学部実習(メディカルサイエンストレーニング)、最先端医学教室、高大接続課題実習 b) 薬学部 サマーサイエンスプログラム、基礎薬学講座 c) 看護学部 思春期教室 イ. 京都大学…SSH、SGHの活動における連携 ウ. 大阪大学…SSHの活動における連携 エ. 大阪工業大学…SSHの活動における連携 オ. 東京大学…SSHの活動における連携 カ. SSH事業での大学研究室訪問 キ. GAコースにおける海外大学との交流プログラム a) スタンフォード大学国際異文化教育プログラム b) 台湾研修における国立台湾大学、台北医学大学での研修 ク. GSコースにおける海外大学との交流プログラム a) 台湾研修における国立交通大学、台北医学大学での研修	・各連携事業の実施 ・高1、高2生の項目22「学校の教育活動を通して多様な経験・体験ができていると思う」の肯定的評価が90%。 (2023 度高校生 90%)	ア、a) 医学部 ・基礎医学講座は、全8回実施され、高1・高2の生徒102 名が修了証を授与された。(○) ・冬期医学部実習は、高1 の46 名が参加した。(○) ・最先端医学教室は、1 月 24 日に中 2 全員が受講した。(○) ・高大接続課題実習は、高1・高2GSコースの希望者17 名が参加した。(○) b) 薬学部 ・サマーサイエンスプログラムには、高1 GSコース20 名が参加した。(○) ・基礎薬学講座は、全5回、中2から高2の生徒46 名が修了証を授与された。(○) c) 看護学部 ・思春期教室は、産婦人科学教室から2名の講師をお迎えし、9 月 27 日に中 2 全員が受講した。(○) イ～カの他大学との連携プログラムについても概ね計画通り実施した。(○) キ. a) スタンフォード大学国際異文化教育プログラムと連携したスタンフォード e-Takatsuki は50 名が受講し、8回計画通り実施できた。(○) b) 3泊4日の行程で計画通り実施することができた。(○) ク、3 泊 4 日の行程で国立陽明交通大学と台湾第一中學において予定通り研修を実施することができた。 (○) ・項目22「学校の教育活動を通して、多様な経験・体験ができていると思いますか」の肯定的評価が高1 は、94%、高2 は88%であった。(○)
	④「探究型」学習の充実と資質・能力の三つの柱の育成	(1) 高校生の「探究型」学習の充実と中学生段階での素地作り (2) 資質・能力の三つの柱(「知識・技能」「思考力・表現力・判断力」「学びに向かう力・人間性」の育成	ア. GSコースにおける理数課題研究 イ. GAコースにおけるグローバル課題研究 ウ. GLコースにおけるクリティカルシンキング エ. 中1総合学習で行う学びのリテラシー オ. 中2総合学習で行う課題解決型学習 カ. 各教科における言語活動(プレゼンテーション、グループ発表、ディベート)の実施 キ. キャリアパスポートの作成指導 ク. 学修インタビュー(中学)	・各教育プログラムの実施 ・自己評価において項目6「各教科の見方・考え方を働かせながら、知識を関連づけたら、考えを形成したり、解決策を考えたり、創造したりする深い学びが実現できている。」の肯定的評価が90% (2023 年度 95%)

高槻中学校・高槻高等学校				
⑤高い学力が確かに身につく指導と成果の検証	到達目標 (A)難関国立１０大学合格者 150 名 (B)国公立医学部＋大阪医大合格者 60 名 (C)中学卒業時の英語力５０％が英検２級	(１) 進学実績の飛躍的な向上を図るための取り組み ア. 各学年が取り組む学力向上策 (２) 中学段階における学習指導の徹底 ア. セルフマネージメントプランナーを積極的に活用し学習習慣の向上を図る。 イ. 家庭学習時間２時間以上を徹底する。 (３) 進路指導部主導による学力向上 ア. 模試結果のフィードバックをもとにした復習。模試における目標の明確化。 イ. 日々の学習での基礎基本の徹底 ウ. 好ましい学習習慣を身につけるための指導 (４) 進路意識を向上させるキャリア教育の充実 (５) 高３三学期の受験指導の強化	(１) 各学年の学習到達度の状況と学力向上策の成果について、学期毎に検証する (２) 中学生の評価において項目１８「自学自習の態度や家庭学習が定着するように指導している」の肯定的評価が 85％ 項目２０「学習意欲や進路意識が向上するような指導をしている」の肯定的評価が 85％ (2023 度項目 18 が 87%、項目 20 が 81%) 中学卒業時の英検 2 級合格率 50%以上 (2023 年度 45.2%) (３) 高校生の評価において項目 20「学校は授業と補習や講習などで進路実現に必要な学力の充実と伸長を図るよう努めている」の肯定的評価が 90%(2023 年度 91%) (４) 中１、中２、高１で講演会を年 1 回実施 (５) 二次対策講座の組織的な開設	(１) 各学年で年間計画を立て、学期ごとに職員会議で報告を行った。生徒一人ひとりに目を向けた成績検討会・出願先検討会を進路指導コーディネータや進路指導部と連携して実施し、適切な進路指導を行った。(◎) (２) 中学生の評価において項目 1 8「自学自習の態度や家庭学習が定着するように指導している」の肯定的評価が 82％であった。(△) 項目 2 0「学習意欲や進路意識が向上するような指導をしている」の肯定的評価が 83%であった。(○) 中学卒業時の英検 2 級合格率 46.1％(123 名)(△) (３) 高校生の評価において項目 20「学校は授業と補習や講習などで進路実現に必要な学力の充実と伸長を図るよう努めている」の肯定的評価が 95%であった。(◎) (４) 中 2 の「ようこそ先輩」と高 1 の「進路シンポジウム」を実施した。(○) (５) 二次対策講座の組織的な開設に加え、登校日を設けるなど意欲喚起に努めた。高 3 で予定通り実施できた。(◎)
	(１) 生活の基本を大切にしている指導の徹底 (２) 平和学習を目的とした修学旅行の実施 (３) 道徳教育の充実 (４) 人権教育の推進	(１) 生活の基本を大切にする指導の徹底 ア. 服装 イ. 挨拶 ウ. 清掃活動←毎日清掃指導＋週 2 回の全校清掃の実施 (２) 平和学習を目的とした修学旅行（中３） (３) 中学３年間を通した系統だった道徳教育 (４) 年間計画に基づく人権教育 ア. 毎学期 1 回人権 LHR の実施 [各学年のテーマ] 中 1：他者を理解し、尊重する態度について考える 中 2：心身に障がいのある人たちの人権を考える 中 3：戦争について学び、平和と人権問題について考える 高 1：性差の捉え方、ジェンダーについて考える 高 2：在日外国人に関わる諸課題について、歴史的・社会背景を含めて理解を深める 高 3：民族・人権などに関わる諸課題について、歴史的・社会的背景を含めて理解を深める	(１) 生徒の評価において項目 中学 1 1 高校 10「学校は社会のルールや社会性を身につけるような指導を十分に行っている」、中学 13 高校 12「基本的な生活習慣やマナーを身につけられるような指導が行われている」の肯定的評価が中学生・高校生ともに 85％ (2023 年度中学 11 が 92%、高校 10 が 89% 中学 13 が 90%、高校 12 が 88%) 自己評価において項目 24「清掃活動が行き届いている」の肯定的評価が 80％ (2023 年度 74%) (２) 系統だった平和学習の実施 (３) 中学生の評価において項目 26「学校は人権の大切さについて、十分に指導している」の肯定的評価が 90％ (2023 年度 92%) (４) 高校生の評価において項目 26 の肯定的評価が 90％ (2023 年度 89%)	(１) 中学項目 1 1，高校項目 1 0「学校は社会のルールや社会性を身につけるような指導を十分に行っている」において、中学 89%、高校 87%であった。また中学 1 3、高校 1 2「基本的な生活習慣やマナーを身につけられるような指導が行われている」が中学 90%、高校 85%であった。中高ともに向上した。(◎) 自己評価項目 2 4「清掃活動が行き届いている」が肯定的評価 84％と昨年度より 10 ポイント上昇した。(◎) (２) 事前・事後学習を含め、充実したプログラムを予定通り実施できた。(○) (３) 中学項目 2 6「学校は人権の大切さについて、十分に指導している」の肯定的評価が 91%であった。昨年度に引き続き、高い評価であった。(○) (４) 高校項目 2 6「学校は人権の大切さについて、十分に指導している」の肯定的評価が 93%であった。昨年度より評価が向上した。(◎)
	ボランティア活動を行うための体制作りと活動支援および活動内容の充実	(１) ボランティア活動支援センターの体制確立 (２) ボランティア委員会(生徒の組織)の校外・校内における社会貢献活動 ア. 日本青年赤十字との連携〔オンライン〕 イ. インターアクトとの連携（地域連携）〔オンライン〕 ウ. 校内・校外企画（クリーンハイク等） (３) 生徒募集イベントにおける「T－BEST」メンバーのボランティア活動	(１) 年度末報告 (２) 50 名による活動 ア. 年 8 回 イ. 年 5 回 ウ. 年 5 回 (３) 学校見学会・学校入試説明会への参加	(１) ボランティア委員会への指導・助言、外部機関との調整・とりつぎを行う体制が十分に確立されている。(○) (２) ボランティア委員会に所属する中 2 以上の生徒 71 人が参加し、各社会貢献活動に取り組んだ。(◎) (３) 学校見学会、学校・入試説明会、秋のオープンキャンパス、計 18 回の活動に登録者 76 名で分担し、積極的に参加し役割を果たした。(○)

⑧指導および資質の向上を図る教員研修の実施	教員の指導力および資質の向上	(1) 研究授業の実施 (2) 難関大学入試問題研究会の実施 (3) 学びあい週間の実施 (4) 教員向け人権研修会 (5) いじめ防止教員研修会 (6) 5 年経験者研修 (7) 新人研修	・自己評価において項目 27「他の教員の授業を見学する機会がよくある」の肯定的評価が 90% (2023 年度 84%) ・(1) から (7) の実施	(1・2) 自己評価の項目 27「他の教員の授業を見学したり、研修を受けたりする機会がよく設けられている」の肯定的評価が 86%であった。(△) (1) から (7) の研修は概ね計画通り実施した。(4) については、法人主催の e-Learning 研修を行い、人権教育部の研修は見送った。(○)
⑨ICT利活用教育の推進	BYODによる ICT教育の充実	ICT利活用教育の推進・環境整備・指導体制の構築を図る ア. メディアリテラシーを含めた教育体制の構築 イ. オンラインの教育への有効活用 ウ. 学習用デバイスの使用に関するルール of 改正 エ. 校内環境の整備、システムの構築 オ. ICT利活用教育推進委員会による教員研修、生徒支援、広報活動	・推進委員、新任教員を対象とした教員研修の実施 ・オンライン会議システムを利用したセミナー等の実施 ・教員、生徒の ICT利活用を支援する体制の確立	・法人が主催する e-Learning 研修を必要に応じ、活用するよう努めた。(○) ・ICT利活用の教員を各学年に配置し、機動的に利活用を促進する体制を整えるとともに、ICT支援員を採用し各教員のスキルやニーズに応じて、実践力の向上に努めた。(◎) ・医療系女子座談会や理系女子座談会をオンラインで実施した。(○)
⑩行事の精選	年間行事の見直しを行い、行事の精選による年間行事の充実を図る	(1) 研究授業・教科指導研究会議 (年 1 回実施) (2) 学校教育全体を見据えた行事の精選	(1) 自己評価項目 4、5、6 の教科指導に関する項目の肯定的評価が 95% (2) 学校運営コア会議・特色教育推進会議の実施	(1) 校内での研究授業・教科指導研究会議を予定通り実施した。自己評価は、項目 4：92%、項目 5：97%、項目 6：95%であった。(○) (2) 両会議とも実施し、行事の精選等を行うとともに、特色教育の推進を図ることができた。(○)